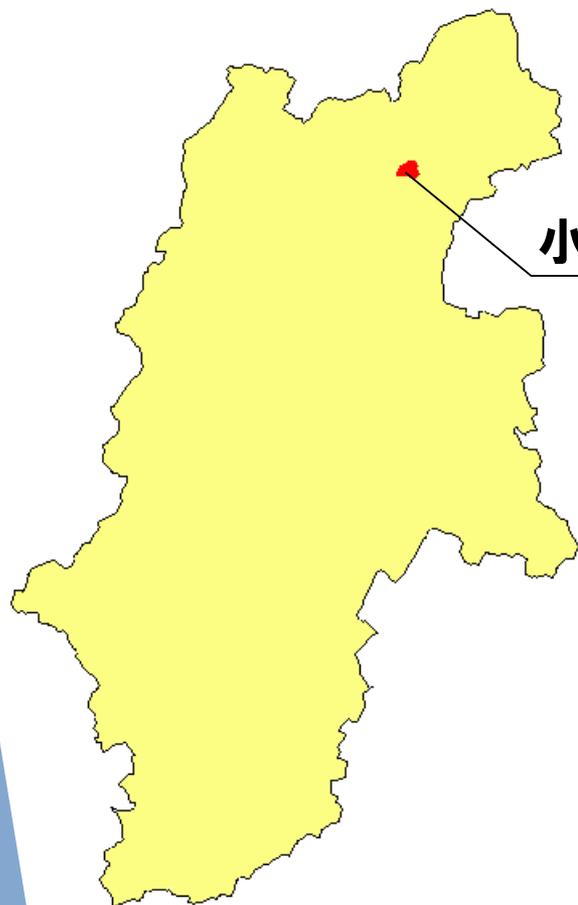


デジタル技術等を活用 した博物館の魅力発信・人材について

令和2年11月5日
長野県小布施町

1. 栗と北斎と花の町 小布施



小布施町

- 人口約11,000人
- 長野県一小さな町
- 栗の産地
- 葛飾北斎の肉筆画
- オープンガーデン120軒
- 年間130万人が来訪



2. 小布施町のデジタルアーカイブ事業

○新町立図書館（愛称：まちとしょテラソ）の移転オープン（平成21年7月）に向けて住民参加の図書館づくりが進められる

「交流と創造を楽しむ、文化の拠点」

-学び、子育て、交流、情報発信の場-

○上記コンセプトを実現する図書館長を全国公募し、図書館にさまざまな資料をアーカイブして公開することをプレゼンした演出家・映像作家が採用される（平成19年12月）

○デジタルアーカイブ事業の構想を事業化へ

2. 小布施町のデジタルアーカイブ事業

小布施町立図書館（愛称：まちとしょテラソ）



2. 小布施町のデジタルアーカイブ事業

- コンセプト「100年後へのおもてなし」「100年後への贈り物」
- 国立情報学研究所（NII）から講師を招き、デジタルアーカイブ事業の勉強会から始める
- MLA連携を構想、町営博物館（2館）、図書館、公文書館（平成25年オープン）の資料等のアーカイブを行う
- 新図書館の目玉事業として

2. 小布施町のデジタルアーカイブ事業

○事業の構成

- 「小布施正倉」【博物館のアーカイブ】
(平成22～23年度)
- 「小布施人百選」
(平成21～24年度)
- 「想」-IMAGINE まちとしょテラソ-
(平成22～25年度)
- 「おぶせお肴謡伝承活性化プラン」
(平成23～24年度)
- その他 (おぶせ地図ぶらり、まちじゅう図書館)

2. 小布施町のデジタルアーカイブ事業

「小布施正倉」【博物館のアーカイブ】

○平成22～23年度

○おぶせミュージアム・中島千波館所蔵の日本画家・中島千波氏の作品151点、高井鴻山記念館所蔵の高井鴻山、佐久間象山、葛飾北斎等の作品50点をデジタル化

○平成22年度構築、平成23年度提供開始

○文化庁「文化遺産オンライン」への登録

○「小布施正倉」として町ホームページの制作

○平成22年度文化庁「全国の博物館・美術館等における収蔵品デジタル・アーカイブ化に関する調査・研究事業」採択

2. 小布施町のデジタルアーカイブ事業

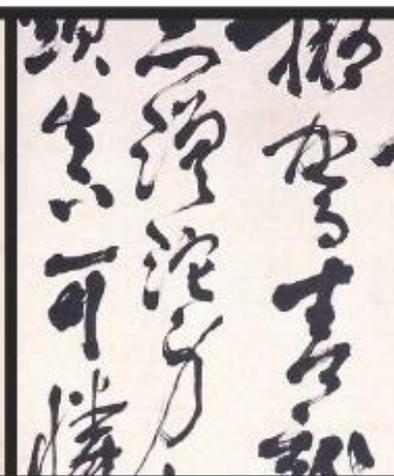
「小布施正倉」【博物館のアーカイブ】

小布施正倉

Digital Archives of cultural heritage in Shinshu Obuse

暮らしに歴史と文化が今なお息づくまち、長野県小布施町、高井須山が土台を築いた芸術を愛する風土は、今も小布施人によって運轉と受け継がれています。このサイトでは、小布施町内に点在する文化遺産を検索・一覧できます。

登録されている文化遺産を全部見る



2. 小布施町のデジタルアーカイブ事業

「おぶせミュージアム・中島千波館」



「高井鴻山記念館」



2. 小布施町のデジタルアーカイブ事業

「小布施人百選」

○平成21～24年度

○小布施のまちづくりに特に貢献があった人物のまちづくりへの想いや手法を取材し、オーラル・ヒストリーの形でアーカイブする

○インタビューア－との対談記録または講演会記録を編集、DVD作成、テキスト化しアーカイブ

○平成21年度「地域活性化・経済危機対策臨時交付金」事業、平成22年度「住民生活に光をそそぐ交付金」事業として実施

2. 小布施町のデジタルアーカイブ事業

「想」-IMAGINE まちとしょテラソ-

○平成22～25年度

**○国立情報学研究所の検索エンジン「想」
-IMAGIN-と連携し、連想検索エンジン・小布施版を開発**

**○まちとしょテラソの蔵書と他機関との関連性を
連想させる検索サービス**

○「小布施人百選」の検索エンジンとしても機能

○平成21年度「地域活性化・経済危機対策臨時交付金」事業として実施

2. 小布施町のデジタルアーカイブ事業

「おぶせお肴謡伝承活性化プラン」

○平成23～24年度

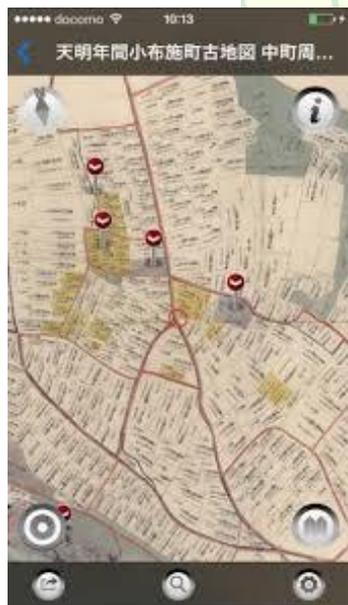
○小布施町で結婚式や祝宴、会合の席で行われる中締め儀式「お肴謡」のベースになっている伝統芸能の能楽を学ぶさまざまなワークショップを開催

○デジタル・アーカイブとしては「寶生太夫勸進能繪巻」をデジタル化しワークショップを開催、専用端末で常時公開

○平成23・24年度文化庁「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」採択

2. 小布施町のデジタルアーカイブ事業

おぶせ地図ぶらり



まちじゅう図書館



天明年間の古地図と小布施町のおすすめスポット、個人宅で開放している図書館の情報を切り替えて閲覧が可能 (App Store)

2. 小布施町のデジタルアーカイブ事業

○デジタルアーカイブの推進体制

- ・図書館長（元映像作家）

【専任】

- ・一般職員1名（学芸員資格、任期付）
- ・臨時職員1名（図書館司書資格）

内部にノウハウを残すため、外注でなく専任を配置

【兼任】

- ・臨時職員8～12名（通常業務＋アーカイブ補助）

【協力（研修）】

- ・国立情報学研究所特任研究員
- ・元日本銀行情報サービス局で資料の整理担当

2. 小布施町のデジタルアーカイブ事業

○総事業費 44,956千円(平成21~25年度)

- ・委託費 小布施正倉 6,930千円
小布施人百選 5,170千円
想-IMAGINE- 2,951千円
お肴謡伝承活性化 6,577千円
- ・講師等謝金 3,325千円
- ・備品購入 3,834千円
- ・人件費(臨時職員賃金) 14,838千円
- ・その他(消耗品等) 1,331千円

2. 小布施町のデジタルアーカイブ事業

○総事業費 44,956千円 (平成21～25年度)

・財源内訳

	国	県	町	計
平成21年度	8,092	2,063	1,768	11,923
平成22年度	1,680	6,819	3,858	12,357
平成23年度	2,880		7,035	9,915
平成24年度	3,697		4,718	8,415
平成25年度			2,346	2,346
計	16,349	8,882	19,725	44,956

2. 小布施町のデジタルアーカイブ事業

○現在の状況

- 「小布施正倉」【**博物館のアーカイブ**】

当初アーカイブ以降は新規掲載なし、閲覧のみ

- 「小布施人百選」

撮影（20人程度）、編集、アーカイブは未実施

- 「想」-IMAGINE まちとしょテラソ-

連携サービスは平成25年度で終了

- 「おぶせお肴謡伝承活性化プラン」

「寶生太夫勸進能絵巻」は平成24年度に5回開催し終了

3. 成果

○小布施町、まちとしょテラソの情報発信

○静かな図書館に人が集まるきっかけ

・入館者数の推移

	図書館	おぶせミュージアム	高井鴻山記念館
平成20年度	17,376	49,838	58,752
平成21年度	76,575	50,126	60,928
平成22年度	97,885	42,976	49,656
平成23年度	122,592	39,958	42,816
平成24年度	145,315	36,470	34,144
平成25年度	144,532	35,241	37,582
平成26年度	141,119	30,848	36,277

赤字は事業期間、博物館アーカイブは平成22～23年度

3. 成果

○図書館の概念を変える

- ・ライブラリーオブザイヤー2011大賞
- ・死ぬまでに行ってみたい世界の図書館15
(2013トリップアドバイザー)

○デジタル・アーカイブの認知度向上

4. 課題と背景

○人材面での課題

- ・平成24年11月末 公募図書館長の任期満了による退職で事業の構想者が不在に
- ・館長退任と同時に他の職員も退職
- ・構想者のアイデアを継続的に発展させることができる人材（フォローできる事務方）の不在
- ・映像作家として人物アーカイブを重視
- ・後任公募館長（出版社勤務）との専門性の違いにより重点施策が変更

4. 課題と背景

○財源面での課題

- ・**首長の重点政策、移転は長年の懸案事項、多額の公費の投入**
- ・**アーカイブ事業の大半は国庫補助金で実施**
- ・**経常経費は倍増（事業費、人件費）**
- ・**補助事業終了後の町単独での予算確保が負担に**
 - システム維持費 1,575千円**
 - 人件費 2,000～2,500千円**

4. 課題と背景

- OMLA連携の難しさ（アーカイブ目的の温度差）
情報発信、保存（伝承）、公開（活用）
- 現存日本画家のアーカイブの難しさ（著作権）
- 「本物を見て感動する」ということとデジタル化の意義
 - ・年間130万人の観光客を迎える町で、リアルに美術品を見てほしいという博物館の思い（情報発信としての意義は理解）

5. 今後に向けて

○デジタル・アーカイブ専門部署の創設、担当者の配置

- MLAのそれぞれの役割と目的、アーカイブの意義を理解しながら、組織横断的にアーカイブを推進する部署の必要性
- 長期的な視点で事業を推進するために、属人的な要素に影響されない部署が推進
- アーカイブを専門的、専属的に行える担当者の配置（有期雇用、臨時職員では断続的）

5. 今後に向けて

○恒常的なシステム運用（デジタル化～公開・利用）を担保する財源の確保

- ・構築費の補助はあるが、システム維持費が負担
- ・現在のアーカイブ関係事業費はほぼゼロ（サーバー維持費のみ）

○デジタル・アーカイブの目的と認識の共有、役割分担

- ・事業開始前に目的を共有する必要性
- ・定期的な事業の効果検証、情報発信の継続